北岡泰典著特別エッセイ

「誰も書かなかった NLP 創始者についての裏話!」

written by 北岡 泰典

July 2022: Version 3

著作権: (株) オフィス北岡

https://www.office-kitaoka.co.jp

©2009-2022 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

誰も書かなかった NLP 創始者についての裏話！

国内 NLP 第一人者である北岡泰典は、1988 年以来、NLP 四天王と呼ばれている NLP 共同創始者のリチャード・バンドラーおよびジョン・グリンダー、NLP 共同開発者のロバート･ディルツおよびジュディス・ディロージャから直接トレーニングを受け、認定されてきています。

本書では、この 4 人の最重要 NLP トレーナー全員から認定を受けた唯一の日本人としての北岡が、グリンダー、バンドラー、ディルツにまつわる「裏話」を披露することになります。

これをご覧になる皆様の NLP への興味が深まると同時に NLP をより親しみ深いものになれば幸甚です。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

NLP 共同創始者リチャード・バンドラーについて

日本国内で最もよく知られている NLP トレーナーは、NLP 共同創始者のリチャード・バンドラー氏です。1950 年生まれの 58 歳なので、25 歳で NLP を創始したことになります。北岡は、バンドラー氏を最高の NLP 実践家と見ています。

国内の大部分の NLP 資格認定書は、全米 NLP 協会が認定したものですが、この団体は、もともとバンドラー氏が創設した団体です。北岡の理解では、この団体の認定権は、国内でトレーナーズ トレーニング コースを開催してきているクリスティーナ・ホール女史も保有しています。

バンドラー氏は、1975 年の NLP 創始時には数学者でした。ロックンロールのミュージシャンでもありました。共同創始者のグリンダーとは対照的に、いわば派手な「ショーマン」で、「舞台催眠術師」的な印象があります。非常に直感的な天才と形容されることもあります。トレーニング時には、歯に衣を着せない形でストレートにものを表現し、ときには「フォーレターワード」を連発します。このため、アメリカのフロリダ州で同氏のトレーナーズ トレーニング コースが開講される際、日本人も大挙して参加しますが、そのときの英語和訳の同時通訳は、ほとんど不可能である、と北岡は聞いています。

1995 年にドイツ・ミュンヘン市で開講された同氏の 3 週間のトレーナーズ トレーニング コースに北岡が参加しましたが、北岡は同氏と一連の個人的な会話をもちました。

その中で、バンドラー氏の「サブモダリティ テクニック」は同氏自身のホログラフィーに関する長年の研究と、人間の脳の機能のし方へのその応用に基づいていることが明

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

らかになりました。

また、北岡は、特別にバンドラー氏のホテルの部屋に招待されましたが、同氏は、ユングやスタニスラフ・グロフの著作に紹介されているような、いわば、人間の深層心理の層に隠されているイメージの一連の絵を描いているのを見せられました。

最近の同氏のワークは、サブモダリティと催眠誘導に基づいています。特に、2008 年秋に出版された同氏の二冊の著書は、それぞれ、サブモダリティと催眠誘導を扱ったものです。

国内で知られていない、バンドラー氏についての情報として、以下の二つがあります。

まず、Wikipedia には、以下の記載があります (北岡訳)。

「1988 月 1 月 29 日、バンドラーは、NLP の生徒でコカイン常習者だった娼婦のコリン・クリステンセンの殺人罪に関して、陪審員による 5 時間半の審議の後、全員一致で無罪を宣告されました。この女性は、1986 年 11 月 3 日に、バンドラーの拳銃を使った、何者かによって射殺されたのでした。この事件は、バンドラーとその友人のジェームズ・マリーノが彼女の家を訪問しているときに起こりました。当局は、クリステンセンが食卓に倒れ掛かっていて、彼女の血がバンドラーのシャツに飛び散っているのを発見しました。マリーノは殺人罪として起訴されませんでした。」

第二に、バンドラー氏とグリンダー氏は、北岡の理解では、1980 年初頭以降、お互い別の道を歩み始めましたが (このことについては、「NLP 共同創始者ジョン・グリンダ

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

ーについて」の項を参照)、1996 年にバンドラー氏は、NLP は自分自身が創始したものであると主張して、グリンダー氏を含めた数人以上の NLP トレーナーを裁判で訴え、億以上の損害賠償を求めていました。結局は、NLP はすでに 20 年以上に渡って公けになっている公開情報／技術であるので、一人の人間が現時点で独占所有することはできないという理由で、バンドラー氏は敗訴しました。2001 年発行のグリンダー著の『Whispering In The Wind』の最終ページには、お互い NLP 共同創始者として相互の貢献を認め合い、互いの努力を尊重し合うといった意味のグリンダー氏とバンドラー氏二人の署名入り和解書のファックス コピーが載っています。

このことに関連して、バンドラー氏がグリンダー氏を含め数人以上の NLP トレーナーを訴えた裁判で仮にバンドラー氏が勝訴していれば、NLP テクノロジーはバンドラー氏の知的所有物となり、世界中の人々は NLP を言及する際、「NLP TM」という風に商標を示す「TM」を必ず「NLP」の後に付ける必要があったかもしれませんが (事実、裁判を起こしていた当時、バンドラー氏は人々 (北岡を含む) に「NLP TM」と「TM」を付けるように奨励していました)、同氏は敗訴したので、現在、NLP は商標登録の対象になっていません。

もしかしたら、以上の二つの歴史的事実から、バンドラー氏は、NLP 誕生の地である米国では疎んじられ、その活動の拠点を英国に移してきているのかもしれません (この事実自体、国内に伝わっていないと思いますが)。

これらの事実は、もちろんのこと、英語圏の人々は、簡単に Web で閲覧できるので、皆知っていることです。日本人だけが「蚊帳の外」にいるのだと思います。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

NLP 共同創始者ジョン・グリンダーについて

もう一人の NLP 共同創始者のジョン･グリンダーは変形生成文法の言語学者で、NLP の理論的な開発に大いに貢献しました。グリンダー氏とジュディス･ディロージャ女史が 80 年代の終わりに「個人的な天才のための必須条件」と名づけられた一連の共同ワークショップを開講したとき、同氏のこの方向性は特に明白になりました。彼らのワークショップで、グリンダー氏は、私たちのマインドのパターンを変え、私たちが本当に求めるものを達成することを可能にさせてくれる極めて強力なツールである「個人編集テクニック」を提示しました。1940 年生まれの 68 歳です。北岡は、グリンダー氏を最高の NLP 理論家と見ています。

最近のグリンダー氏は、現在のトレーニング パートナーのカルメン・ボスティック女史とともに、「NEW コード NLP」ワークを提供してきています。

2005 年、北岡は、NLP 創始以来 30 年間来日することのなかった NLP 共同創始者として、グリンダー氏を日本に招聘することに成功し、同氏は、3 月に北岡開催のプラクティショナー/マスター プラクティショナー合同コースでトレーニングを行い、また同時に、東京ビッグ サイトで共同トレーナーのボスティック女史とともにビジネス向けワークショップ、「NLP リーダーシップで才能を開花させよ」を開講されました。その後も、同氏は、「トレーナーズ トレーニング コース」と「NLP コーチング コース」開催のために何度か来日されています。

北岡は、グリンダー氏と個人的会話をしてきていますが、いくつか興味深い「裏話」があります。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

一つ目は、グリンダー氏は、当初自他共に認める「チョムスキーの後継者」でしたが、ある日 LSD を摂取して、その「保守的な世界観」が一挙にしてがたがたと崩れ、そのことが NLP 創始につながったということでした (60 年代、70 年代のヒッピー文化全盛のカリフォルニアでは、ほぼすべての若者がそのようないわゆる「非合法」ドラッグの実験をして、変性意識の研究を行っていました。この背景が、外的化学物質に依存しない「脳内麻薬」としての NLP 体系の構築につながったことは疑うことはできません)。

グリンダー氏は、北岡に、「グリンダー & ボスティック著の『Whispering in the Wind』で、LSD 摂取が NLP 創始につながった事実に言及しなかったが、言及すべきだった」とおっしゃいました。

さらに、60 年代にグリンダー氏は、「イッピー」 (米国西海岸文化において、ヒッピーの後に出現した、「Youth International Party (若年国際党)」の党員) として、サンフランシスコの金門橋をデモ行進していたが、現在のトレーニング パートナーのボスティック女史は、そのとき「体制側」として、デモ隊が阻止した車列の一台に乗っていて、そのデモ隊について悪態をついていただろう、ことは、皮肉なことだ、ということでした。

二つ目は、なぜコミュニケーションの達人の二人である NLP 創始者の二人が 1980 年初頭に「喧嘩別れ」したのか知りたかったので、北岡がグリンダー氏に、「どのようにしてグリンダーさんはバンドラーさんと道を違え始めたのですか?」と聞いたときの同氏の答えでした。同氏によれば、

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

「私は、バンドラーの口があまりにも悪いので、(彼が一人でワークをしているときはともかく、少なくとも私との共同ワークの際は) 口を慎むように、と注意したとき、彼も同意して、二度とやりません、と答えたが、その後、再度、悪態をつき始めたので、私は、最終的に『切れて』、パートナーシップを解消しました。」

ということでした。さらに、同氏は、

「私のバンドラーに対する『アウトカム』は、彼とはコミュニケートしないというもので、この点について、私は (卓越したコミュニケータとして) 首尾一貫しています。」

ともおっしゃっていました。

三つ目は、1990 年代初等に、米国のグリンダー氏の元に、現在国内でコーチングの最大手となっている団体の代表三人が訪れ、同氏との共同 NLP ワーク プロジェクトを国内で提携実施する意図がないか打診したという事実です。

このとき、グリンダー氏は、「私の『気違い』の内的世界を理解できる日本人は、残念ながらたった一人なので、あなた方とは提携できません」と言って、その日本人側のオファーを丁重に断ったということでした。

「グリンダー氏の内的世界を理解できる唯一の日本人」とは、1988 年と 89 年に同氏の資格コースに参加して、正式認定を受けていた北岡自身でしたが、これは、非常に嬉しいグリンダー氏の北岡に対する心遣いでした。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

ちなみに、北岡は、この三人の日本人は、グリンダー氏との提携プロジェクトが座礁したので、体系的に複雑な NLP の日本導入を諦め、その後、もっと理解が簡単な、パッケージ化もしやすい「コーチング」の日本導入を決め、その会社は、現在、コーチング業界の最大手として、現在大きな成功を収めている、と理解しています。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

NLP 共同開発者ロバート ディルツについて

NLP 共同開発者のロバート・ディルツ氏は、現在、カリフォルニア州サンタ クルーズ市で NLPU (NLP ユニバーシティ) を NLP 共同開発者のジュディス・ディロージャ女史とともに共同主催しています。北岡は、ディルツ氏を最高の NLP テクニック考案者と見ています。

NLP 開発を含む NLP 資格認定プログラムを提供する主要団体である NLPU では、全世界の NLP 実践者に対して最高レベルの NLP セミナーを開講しています。また、NLP の分野での最新の開発、応用、および創造的活動が最も活発な場所にもなっています。

NLP 共同開発者、著者、トレーナー、コンサルタントであるディルツ氏は、NLP 共同創始者のグリンダー氏とバンドラー氏が 1975 年に NLP を創始した当初から長年にわたって両氏の生徒でした。ミルトン・H・エリクソン、グレゴリー・ベイツンにも師事したディルツ氏は、教育、創造性、健康、リーダーシップへの NLP の応用の領域での先駆者です。NLP の分野へのディルツ氏の貢献には、ストラテジー、信念体系に関連した NLP テクニックの研究、「システミック NLP」として知られている開発が含まれています。ディルツ氏のテクニック、モデルには、「信念統合」、「スペル ストラテジー」、「アレルギー テクニック」、「心身論理レベル」、「信念変更サイクル」、「生成 NLP パターン」、「NLP 統一場理論」、その他があります。

特に、ディルツ氏の代表的モデルである「心身論理レベル (ニューロロジカル レベル)」は極めてパワフルなモデルです。これらのレベルは、ある個人の情報処理レベルを意味し、高レベルから低レベルの順に、(1) アイデンティティ、(2) 信念と価値、(3) 能力、

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

(4) 行動、(5) 環境です。この心身論理レベルの観点から見ると、対人コミュニケーションにおいて、相手が特定の時点でどの心身論理レベルから機能しているかを意識することで相手の内的地図をさらによく把握できるようになるという利点があります。

ただし、NLP 共同創始者のグリンダー氏によれば、心身論理レベルは NLP の一部ではありません。これは、同氏によれば、あるテクニックまたはモデルが NLP の一部であるためには、1) 有効性があること、2) 「プロセス モデル」であること、の二つの条件が満たされていなければなりませんが、心身論理レベルは 1) の条件を満たしている一方で、2) の条件は満たしていなくて、「コンテント モデル」だからです。

すなわち、プロセス モデルとは、あるモデリング領域で、詳細なコンテンツ学習の試行錯誤の末「帰納法」的に見つけ出す公式のようなものですが、グリンダー氏によれば、このモデルはその手順を踏んでいるようには思えず、このため、ディルツ氏に対して、長期にわたって、どのような帰納法的過程の末にこのモデルに行きついたか明示化するように求めていたが、最後まで満足のいく回答を得られなかった、ということです。このため、同氏にとっては、これは「コンテント押し付けモデル」です。

一方で、北岡には、ディルツ氏の心身論理レベルは、数千年前のインド哲学のモデルである「五つの鞘」の「焼き直し」に見えます。この五つの鞘は、高レベルから低レベルの順に、(1) 至福、(2) 知性、(3)記憶、(4) 気 (エネルギー)、(5) 肉体です。古代印哲では、本当の自我 (アートマン) は、これらの五つの鞘に囲まれているとされていました。

2002 年に北岡が NLPU でトレーナーズ トレーニング コースを受けていたとき、世界

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

各国から来ていた 300 名の参加者の前で、ディルツ氏に「印哲の『五つの鞘』をご存知ですか?」と聞いたとき、同氏は「知りません」とは答えていらっしゃいましたが、これは、かなり疑わしいと思えます。その根拠は、当時のディルツ氏の口述筆記者は、超越瞑想の創始者の (最近亡くなった) マハリシ・マヘシュ・ヨギの元口述筆記者だったからです。

最近のディルツ氏は、「ファイブ リズムズ」 (ダンシング瞑想の一種) のインストラクタのデボラ・ベーコン女史と共同ワークを提供してきています (お二人は、最近結婚されました)。

©2009 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

編集後記 (2022 年 7 月)

本エッセイについて、以下の 2 点を追記したいと思いました。

1) 通常、NLP 共同創始者は、ジョン グリンダーとリチャード バンドラーの二人とされていますが、実は、三人目の共同創始者がいました。

その方は、北岡が翻訳した『Magic of NLP』の共著者のフランク ピューセリックです。

北岡のメルマガ「これが本物の NLP だ！」の旧版第 13 号に、以下の言及があります。

「本書の共著者の一人、フランク・ピューセリックは、NLP 共同創始者であるグリンダーとバンドラーが 1970 年代初めに「メタモデル」というテクニック（本書で詳細に解説されています）を開発したときの重要な共同研究者で、実際のところ、NLP 界の一部 (たとえば、オーストラリアの NLP 団体、Inspiritive (www.inspiritive.com.au) 等) では、ピューセリックは、グリンダー、バンドラーとともに 3 人の NLP 創始者の一人として紹介されています。私自身、最近の電子メール交信の中で、グリンダー氏に、同氏とピューセリック氏の関係についてお伺いしましたが、同氏はグリンダー氏の友人で、現在は、ウクライナ国 (同氏の母国であると理解しています) で、コンサルティング トレーナーとして活躍されているということでした。」

また、グリンダー編の『The Origins of NLP』という本では、ピューセリックは、レスリー カメロンという女性と懇ろであったが、バンドラーにレスリーを「寝取られた」後、バンドラーから「あなたはもう我々のチームの一員ではない」と言われ、泣く泣くチームを去った、という旨のことを、同書に寄稿した回顧録で述べています (レスリーは、その後レスリー バンドラーとなりました)。

©2009-2022 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

2) 本文で、北岡は、ロバート ディルツについて、以下のように書いています。

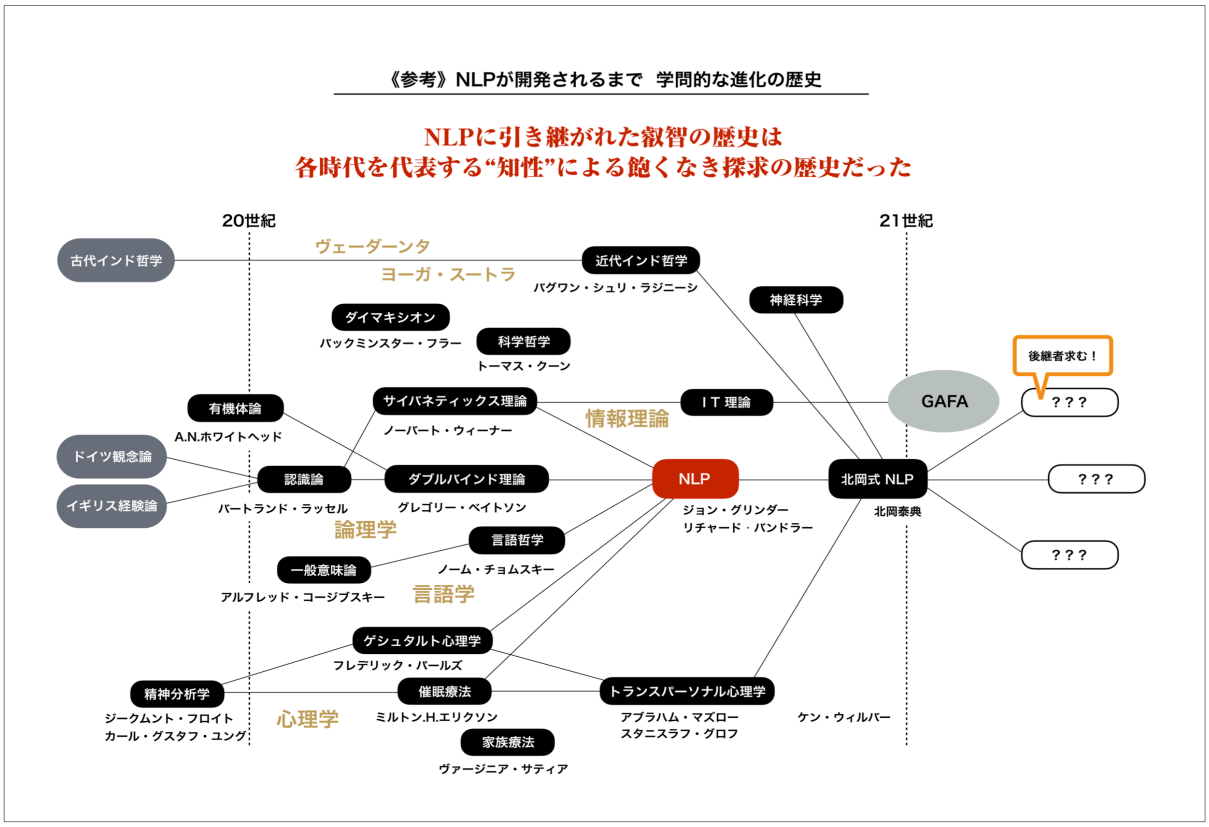
「2002 年に北岡が NLPU でトレーナーズ トレーニング コースを受けていたとき、世界各国から来ていた 300 名の参加者の前で、ディルツ氏に「印哲の『五つの鞘』をご存知ですか?」と聞いたとき、同氏は「知りません」とは答えていらっしゃいましたが、これは、かなり疑わしいと思えます。その根拠は、当時のディルツ氏の口述筆記者は、超越瞑想の創始者の (最近亡くなった) マハリシ・マヘシュ・ヨギの元口述筆記者だったからです。」

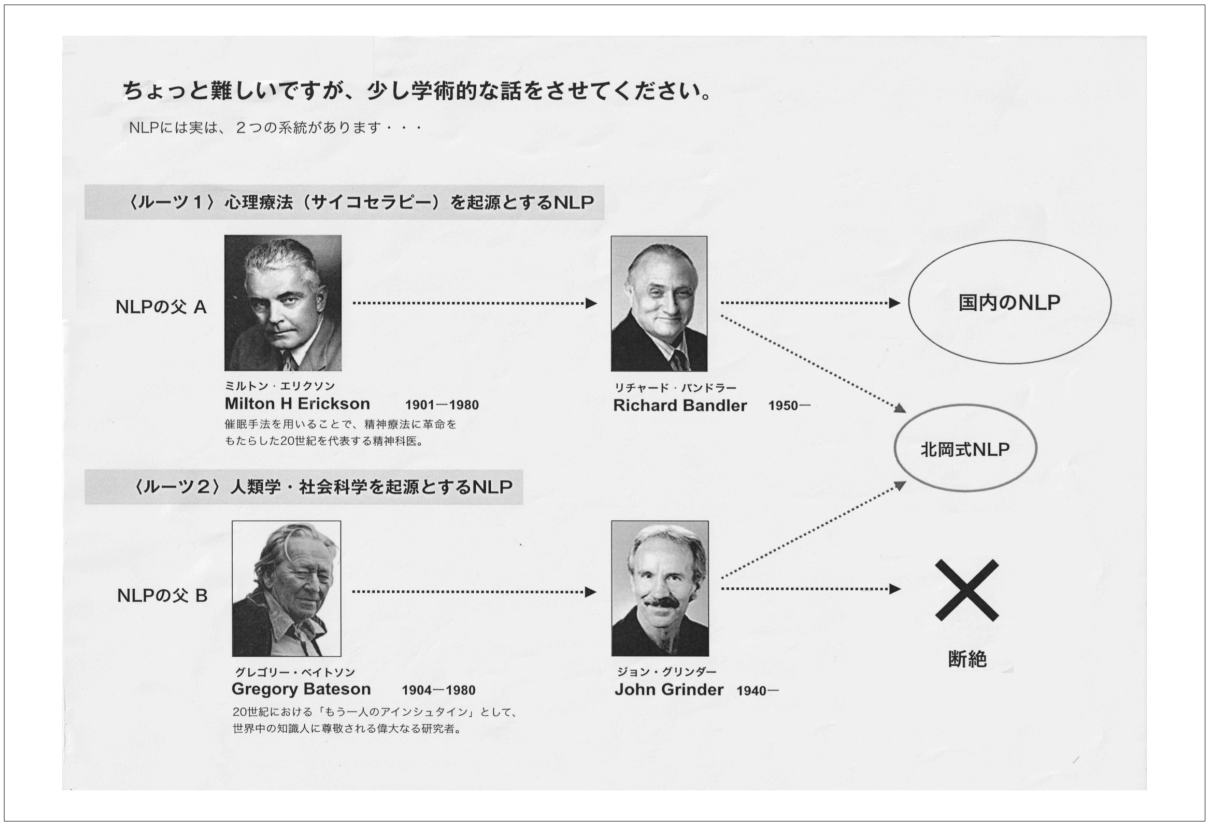
このことについては、北岡は、ディルツの心身論理レベルの「アイデンティティ」の上に「ビジョン」あるいは「ミッション」を付け加える「新しいモデル」を長年目にしてきていたのですが、最近、北岡は、もしかしたら、ディルツは、2002 年時に北岡から彼のモデルが印哲の「五つの鞘」モデルの「焼き直し」ではないか、という指摘を受けた後に、この「事実を隠し」、そういう「要らぬ横槍」を避けるために、あえてもう一つレベルを追加したのではないか、という思いにもつに至りました。

北岡のこの思いは、単なる北岡の、あまりにも穿ちすぎた「我田引水的なかってな妄想」なのかもしれませんが、ただ、過去の文献を調べて、いつの時点からディルツが新モデルを提唱し始めたかを特定することができれば、北岡の主張の妥当性の是非が確かめられるかと思っています。

©2009-2022 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.

以下に、二つの「NLP のルーツ相関図」のイラストを紹介させていただきます。





©2009-2022 by Taiten Kitaoka & JNLPA. All rights reserved internationally.